

2.6 現時点における評価と今後の課題

以上までの検討結果を踏まえ、鳴鹿大堰建設事業の現時点における評価と今後の課題について整理した。

- ◆ 鳴鹿大堰における「治水」に係わる費用便益比は、 $B/C=2.80$ である。
- ◆ 洪水防御については、洪水時に適切なゲート操作を行い、洪水を安全に流下させ、鳴鹿大堰改築に伴い、堰上下流の水位を低減させている。
- ◆ かんがい用水の安定取水については、新取水施設の整備および日々の運用により、流入量の変動に関わらず安定した取水を可能とし、地域の発展に貢献している。
- ◆ 堰上下流の河川や周辺では、オオクチバスやアレチウリといった特定外来生物も確認されたが、中流域の河川環境に生息する動植物が多く確認されており、周辺には良好な河川環境が存続していることが示された。
- ◆ 鳴鹿大堰の魚道では、アユ、カマキリ(アラレガコ)等の多くの回遊性魚類の遡上が確認されており、魚道改修による魚類の遡上環境の改善効果が認められた。

以上の結果より、鳴鹿大堰建設事業は、十分効果を発揮しているものと判断される。

今後もフォローアップ調査を進め、大きな出水・濁水や水質変化等が生じた場合は、必要に応じて同様の分析・評価を行い、それらを合わせて定期報告することとする。

2.7 改善措置の必要性

2.8 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性